

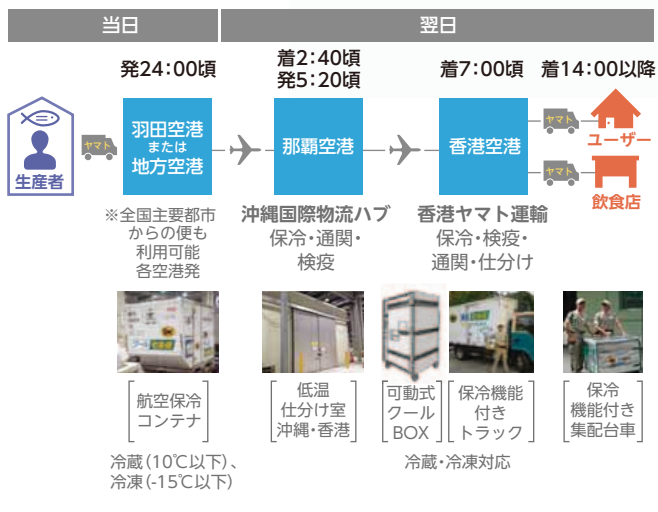
バランスの取れた経営に向けて

ヤマトグループでは、中期経営計画『DAN-TOTSU3か年計画STEP』の中で、基本戦略「バリュー・ネットワーキング構想」の推進と「健全な企業風土」の醸成を両輪としたバランスの取れた経営の実現を掲げています。今回の特集では、具体的な取り組みについてご紹介します。

国際クール宅急便

1 「バリュー・ネットワーキング」構想 ～「国際クール宅急便」の取り組み～

「バリュー・ネットワーキング」構想では、物流を「バリュー（付加価値）を生み出す手段」に進化させ、業種・事業規模を問わない「物流の最適化」を通じて、日本経済の成長戦略を支える新たなインフラとなることを目指しています。



ヤマトグループは、「バリュー・ネットワーキング」構想の中で、世界初の「一貫保冷・国際小口輸送」ネットワークの実現を掲げました。

近年、食の安心・安全が重要視されるアジア市場において、日本の農水産品に対するニーズが極めて高いことや、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）・自由貿易協定（FTA）など貿易の自由化に向けた動きがあることから、日本政府は農業再生に代表される農水産品の輸出拡大、6次産業化を政策として進めています。しかしながら、これまで日本全国から利用可能な小口単位での国際間保冷輸送サービスがなかったことから、配送の利便性や品質面において課題が多く存在していました。

そこでヤマトグループは、日本全国とアジアの宅急便ネットワークをつなぎ、「国際クール宅急便」として世界初の国際間の小口保冷輸送を実現しました。2012年11月より利用を開始した沖縄国際物流ハブと全日本空輸株式会社の航空ネットワークならびに保冷輸送能力をフル活用することでアジアで急速に成長している通販や、生鮮品などのお取り寄せ（BtoC市場）、温度管理を必要とする工業製品やサンプル品（BtoB市場）の配送などに翌日配達で対応し、日本の生産者様、モノづくり事業者様のアジア市場への輸出・販路拡大を支援しています。

Column

ヤマト運輸、ANA Cargoとのパートナーシップを強化

ヤマト運輸では、株式会社ANA Cargoとのパートナーシップを強化し、沖縄国際物流ハブを基点としたビジネスモデルの拡充をはじめ、両社が保有するネットワークやノウハウを連携させることで、国内外におけるさまざまなお客様のニーズに対応していきます。

今後は、航空輸送へのモーダルシフトを推進するほか、新たな旅行者向け手荷物輸送サービスや高品質な輸送を実現する航空物流資材（コンテナ等）の共同開発などを手がけていきます。なお、パートナーシップのシンボルとして、ヤマト運輸の「クロ

ネコマーク」がラッピングされた貨物機が5月14日より運航を開始しています。

